



挨拶

徳島県高等学校体育連盟
会長 藤井 敬久

徳島県高体連会員の皆様の日々の献身的なご尽力が、本県高校生の体育・スポーツの振興や競技力の向上、人材育成に繋がっていることに心より感謝申し上げます。また、本県高体連の諸事業に、深いご理解とご協力いただいていることにお礼申し上げます。

さて、令和2年度全国高等学校総合体育大会は、北関東ブロックで「魅せる躍動 北関東総体 2020」の開催が当初の予定でした。しかし東京オリンピック・パラリンピック開催により宿泊施設の確保が困難などの理由により、11競技を北関東4県で開催し19競技を全国各地で開催するという、史上初の分散開催でのインターハイが計画されました。しかし急速に拡大する新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の国内の感染を受け全国高体連の臨時理事会で大会開催の可否などについて、検討・協議した結果、次の3つの理由により史上初となる夏のインターハイ中止という苦渋の決定となりました。

- ① 感染拡大の収束には相当な時間がかかるといわれている。競技中だけではなく移動や宿泊などによる感染リスクは大きく、選手、補助員、大会役員など、大会に関わる人の安全・安心を確保することが困難である。
- ② 学校の臨時休業により十分な練習時間を確保することが困難な状況であり、大会においてのけがや熱中症等の発生など、事故の発生が危惧される。
- ③ 全国の医療機関が新型コロナウイルス感染症への対応に迫られる状況にあり、大会実施に伴う事故などに十分な対応が出来ないことが懸念される。

高校生の夢の舞台であるインターハイ中止の決定は大変残念であり、インターハイを目指して日々練習に励んでいた高校生、大会開催に向けて高校生活動により準備を進めていた地元高校生、小さい時から支え応援してきた保護者の皆さま、必死になって選手を育ててきた指導者の皆さまなど多くの方々に大きな失望感を与えることとなりました。県内においても4月に徳島県高等学校体育連臨時常任理事会において協議を重ねた結果、選手をはじめ大会に関わるすべての方々の健康・安全を確保することが困難であるとの結論に至り、第60回徳島県高等学校総合体育大会中止の決定となりました。しかしその後、各専門部を中心に高校生の安全・安心を最優先に考えて代替大会などの検討がなされ、無事に開催できた競技もありました。しかし残念ながら代替大会が開催されなかった高校生の皆さん、大会が開催されなかったことは残念ですが、これまでの厳しい練習が無駄になるわけではありません。実力を発揮するチャンスはきっと訪れます。次の目標に向けて取り組むことの大切さや、鍛えた忍耐力は長い人生の中できっと役立つことでしょう。自信を持って、今後の高校生活動や人生の糧として、前を向いて歩みを続けてほしいと思います。

さて2022年は、四国開催の全国高校総合体育大会が行われます。本県においては、開会式と6競技の実施が決定しています。このような中、9月には令和4年全国高等学校総合体育大会徳島県実行委員会が設立され、大会スローガン「燃え上がれ我らの闘志 四国の大地へ」、大会愛称「躍動の青い力 四国総体 2022」と決定し、いよいよ本格的に四国総体に向けスタートしたところです。我々県高体連の関係者が一体となり体育・スポーツの振興・普及・強化、体育・スポーツを通じた人材育成に共に心と頭と体を活かし、四国総体の成功に向け、汗を流さなければならないと思っておりますので、皆さまどうかよろしく願いいたします。

本連盟では、現状を十分に把握するとともに未来を切り拓いていく子どもたちのために誠心誠意取り組んでいくつもりです。また、体育・スポーツを通じた人間形成の中で、フェアな精神で規律を重んじ、相手を思いやることのできる自立心ある心身共に健全な子どもたちの育成に努め、環境整備にも取り組んでいきたいと考えています。今後ともご協力よろしく願いします。

最後に、県教育委員会や県知事部局をはじめ関係機関と会員の皆様のご協力・ご尽力に敬意を表しますとともに厚くお礼申し上げます。また、原稿をお寄せいただいた皆さんに感謝いたしまして高体連誌の発刊のあいさつとさせていただきます。



高体連誌発刊によせて

徳島県教育委員会体育学校安全課
課長 吉岡直彦

徳島県高等学校体育連盟会員の皆様には運動部活動をはじめ、本県高等学校における体育・スポーツ振興の推進役として、各競技会や研究活動の普及と発展のために御尽力をいただいておりますことに、敬意を表しますとともに深く感謝申し上げます。

さて、令和2年度の高等学校競技スポーツを振り返ってみますと、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、全国高等学校総合体育大会のみならず四国高等学校及び県高等学校総合体育大会までもが中止となり、関係者の皆様方におかれましては大変残念な思いをされたことと存じます。しかし、このような状況の中で、各専門部におかれましては感染対策を講じながらの代替大会開催にご尽力をいただき、これまで運動部活動に取り組んできた生徒の成果を発表する機会を作っていただきましたことに深く感謝申し上げます。

さらに感染拡大の状況に気を配りながら、感染対策を講じて活動に臨まれているすべての指導者の方々の御苦労と御努力に対しまして、重ねてお礼申し上げます。今後につきましても、Withコロナ時代の活動となり、様々な課題に直面することがあるかと思いますが、高校生のみなさんの努力や才能を引き出し、たくさんの舞台上で最高のパフォーマンスが発揮できますよう、一層の御指導・御協力をお願い申し上げます。

一方、学校教育においては、平成30年告示の新学習指導要領が令和4年度入学生から年次進行により適用されることとなり、昨年度から移行措置が実施されているところです。保健体育科においては、「心と体を一体として捉え、生涯にわたる心身の健康の保持増進や豊かなスポーツライフの継続」が重視されており、卒業後も継続して実践ができるよう、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性等」の育成を重視するようになっております。さらに体力や技能のレベル、年齢や性別、障がいの有無等に関わらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を社会で実践することや、スポーツの意義や価値等の理解につながるように、オリンピック・パラリンピック競技大会がもたらす成果を次世代に引き継いでいけるような内容に見直しを図られました。

スポーツは、世界共通の人類の文化であり、人生をより豊かに、充実したものにするとともに、人格形成、体力向上や健康長寿の礎にもなります。「健やかな体」を育成し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続することができる資質や能力を育てるために、学校教育活動全体において、体育・健康に関する指導を充実させ、全ての生徒の体力向上と健康増進を図る取り組みをお願いいたします。

また、スポーツは競技者だけのものではありません。「する・見る・支える・知る」等の多様な関わり方を理解し、スポーツを人生の一部として楽しむ、その基礎を高校生活において身につけてもらいたいと思います。各学校におかれましては、保健体育の授業や運動部活動等をはじめとする、あらゆる学校教育活動の機会を通して、創意工夫に富んだ取り組みを進めていただきたいと思います。

結びとなりますが、徳島県高体連会員の皆様には、本県の未来を支える高校生の心身ともに調和のとれた健全な発達と、高校スポーツの充実・振興のため、一層の御支援・御協力をお願いいたします。

徳島県高体連の今後益々の御発展を祈念申し上げます、高体連誌発刊に寄せる言葉といたします。